

地域社会振興部が新設されました

地域社会振興部

地域事業支援課

- 地域包括ケア推進班
- 認知症対策班
- 運転と地域移動対策班
- スポーツ振興班

今年度より、地域社会振興部が新設されました。期限付きの特設委員会だった地域包括ケアシステム推進委員会は、地域包括ケア推進班として活動を継続することとなりました。新たに示された地域共生社会5か年戦略のスローガン「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」を目指し、重点活動項目と第四次5か年戦略関連活動を積極的に進めていく方針です。

今年度の重点活動項目として、OT 参画のための市町村担当者設置事業、協会一士会連携・士会間連携(ブロック機能)事業、「保健事業と介護予防の一体的実施」参画事業、そして第四次5か年戦略関連活動として、短期集中型サービス以外の医療から地域(在宅)への取り組み促進事業、「短期集中型サービス」の参画促進事業、地域事業参画推進のための士会マネジメント事業、「重層的支援体制整備事業」の実態を把握と参画推進事業等を、部員23名体制で進めて参ります。

第1回 地域事業支援会議開催

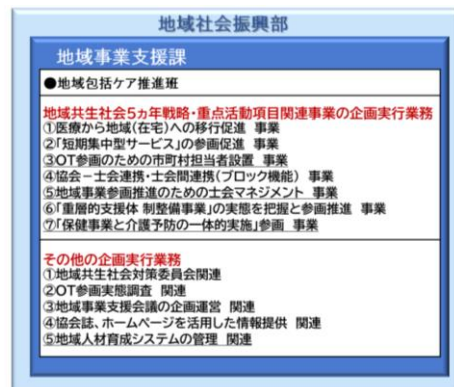
今年度第1回目となる会議は、2023年6月23日(金)の19時から、オンラインで開催され、約200名の方が参加されました。当士会からは、地域社会振興部部員として松木会長、三原副会長が参加。選任者として山崎理事、聴講者として鈴木樹美枝理事、加勢理事が参加されました。会議では、新体制の報告と7つの重点活動項目とその他の実行业務について説明がありました。

山形県士会はAブロック



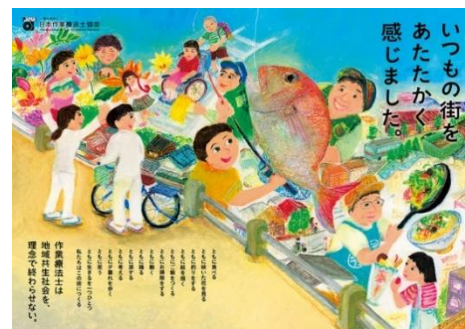
ブロック別のグループワークが開催され、山形県士会はAブロックの所属となりました。ブロック内の話し合いでは、自己紹介と今年度のブロック会議について、今後の協会一士会連携について話し合いました。中心として話し合われたのは、協会からの情報をいかに県士会員に伝達するかでした。他士会での伝達方法を確認しながら、参考になった方法を各士会に持ち帰り検討するなどの協議がなされました。

協会からの伝達方法として、広報誌やニュースレターの活用などを取り入れ、会員に情報発信を行っていきとありました。今後は、ブロック会議や地域事業支援会議等を通じて情報を共有していきたいと思ひます。



作業療法士は地域共生社会を理念で終わらせない

「ともに〇〇」をキーフレーズに、障害がある方もない方も、子どもも大人も、みんなが笑顔で暮らしている社会をイメージし、書かれたポスターです。ポスターの最後には「作業療法士は、地域共生社会を理念で終わらせない」と強い意志を表しています。このポスターを見た方が「こんなあたたかい街がいいな」、「私も地域社会をもにつくりたいな」と心に誓う……などということがあれば、うれしい限りです。



編集後記

新たな部の新設と今年度初めてのキックオフ会議でした。今まで参加されていた顔ぶれから初めての方まで、活気あふれる議論の中、無事に第1回の会議を終えることができました。他士会参加者の活気に負けないように、我々も気を引き締めて取り組んでいこうと思ひます。山形県士会 地域包括ケア推進部 担当:山崎

令和5年 地域包括ケア推進部研修会予定

○ケア会議助言者向け説明会

内容：日本作業療法士協会

「OT参画のための市町村担当者設置事業」の説明

日程：1回目8/22（火），2回目9/5（火）

○助言者情報交換会（支部研修会）

最北支部8月7日、置賜支部R6年2月、村山、庄内支部検討中

○助言者資質向上研修会

（1回目）

内容：ケア会議DVD上映、ケア会議概要説明

日程：検討中

（2回目）

内容：事例検討

日程：検討中

○地域ケア会議総合事業全県研修会

内容：県栄養士会との共同企画

日程：11月の予定